

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2008年2月18日報告

2007年4Q(10-12月)調査結果 目次

1	2007年4Q結果の要約	4	5.7.	オペレータの世界全体に占める比率	29
2	地域別累積加入推移(四半期別)	8	6	地域別オペレータ最新動向	30
2.1.	2005年3Qからの地域別加入修正	11	6.1.	アジア	30
2.2.	BRICs加入推移	13	6.2.	欧州	30
2.3.	97カ国 国別加入推移	15	6.3.	北米	30
2.3.1	アジアパシフィック	15	6.4.	中南米	30
2.3.2	中近東	15	7	主要モバイルインフラメーカ	31
2.3.3	西欧	16	8	端末需要動向推移	32
2.3.4	東欧	16	8.1.	2007年4Q(10-12月)需要動向	32
2.3.5	米州(北米/中南米)	17	8.2.	地域別販売動向	36
2.3.6	アフリカ	17	8.3.	2008年メーカ別需要量予測	37
3	方式別加入推移(四半期別)	18	9	Nokiaの2007年4Q動向	39
3.1.	2005年3Qからの方式別加入修正	21	10	Motorolaの2007年4Q動向	42
4	2008年加入者予測	23	11	Sony Ericssonの2007年4Q動向	45
4.1.	地域別	23	12	Samsungの2007年4Q動向	47
4.2.	方式別	24	13	LGの2007年4Q動向	49
5	主要オペレータ加入者数推移	25	14	5社以外の2007年4Q動向	54
5.1.	アジア	25	14.1.	欧州メーカ	54
5.2.	西欧	26	14.2.	日本メーカ	55
5.3.	東欧	27	15	Motorolaのシナリオ	57
5.4.	北米	28	16	端末各社の出荷計画	59
5.5.	中南米	28	17	製品在庫状況	60
5.6.	中東/アフリカ	29			

2007年4Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

10-12月の新規加入は過去最高を記録、年末の累積ベースは32億件弱に達した。年間の新規加入件数も過去最高の年間加入件数になる。加入の前提として上記累積加入件数は97カ国に限定したもので、弊社の推定ではワールドワイドの96-97%をカバーしていると推定する。97カ国の国別加入推移(年別)は後掲表に記載。

97カ国以外ではカザフスタン、イラクが2007年末で累積1,000万件を越えている。

加入者のカウントはオペレータ報告数値、政府発表を基に積み上げているが、加入者イコール携帯電話保有者にはならない。特にプリペイドユーザの多い国はSIMカードの枚数カウントになり実態以上の数値になる。

4Qの地域別加入はクリスマスシーズンが影響し、欧州、中南米地域での新規加入が目立った。アジアモインド、中国が順調に新規加入を伸ばし、前期3Qの新規加入規模に対して1,000万件程度上回った。4Qでは3Qに引き続きインドの新規加入が中国を上回り、2008年以降モインドが新規加入をリードすることが鮮明になった。

方式別ではCDMAが鈍化する一方、GSMが新規加入を増加するなど好対照の加入傾向を示した。西欧ではGSMからの買い替えからWCDMAの新規加入が大きく伸長した。

端末需要

4QではNokia、Sony Ericssonがシェアを上げる一方、Motorola、Samsung、LGのワールドワイドシェアは前期を下回った。

4Qでは上位メーカーのほかに中国国産メーカーが国内外向けに端末出荷を急増させた。10月以降は国慶節、年が明けて春節と中国では需要シーズンが続くことで、積極的な出荷拡大を図った。ただ11月後半から国産端末メーカーからの部品発注は急速に冷え込み、軟調に転じた。

端末メーカーに対する融資規制の影響も考えられるが、需要を見込んだ生産過剰の懸念もあり、1-3月期はやや調整色を濃くすることが予想される。

2月に入り、MotorolaのCEOが端末部門のスピンオフを示唆し、業界に動揺が走った。Motorolaの端末部門は4期連続赤字を記録し、大口株主から経営に対する非難が出ていた。CEOは具体的な提案を出していないが、端末部門の責任者を兼務することで実効性をアピールした。

通常部門売却の案件は水面下で進められるもので、憶測が先行することで端末部門の従業員、オペレータ、部材供給メーカーに不安が広がる恐れがある。某ライバルメーカーはこの問題が長引くことで、Motorolaの端末値下げを誘発し、市場を混乱させると冷めた見方をしている。